

ユタヤの居留区で生活していたらしい。

3. 山田長政とアユタヤ

長政は駿河の生まれで、若い頃は沿津城主・大久保忠佐の駕籠かきであったが、うだつが上がらないので、持ち前の野心と行動力から一攫千金を求めて新天地アユタヤに数人の親友と朱印船で渡ったのは1611年(慶長16年)である。当時アユタヤ日本人居留区の頭領オーブラ純広(アユタヤ帰化人らしい日本人)の部下として600人の日本人義勇兵とともに侵攻頻繁のビルマ軍勢の撃退に活躍した。アユタヤ朝は強力な軍隊を持っていなかったの、少数の政府守備隊とともに日本人義勇兵の指揮を執り勇猛果敢にビルマ軍と戦った山田長政が、貿易商才も併せ持っていたので住民の人望を集めて居留区の頭領になった。

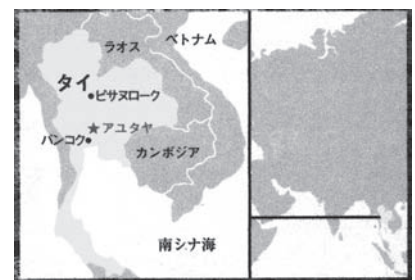
4. 長政は持ち前の行動力を駆使して江戸幕府との外交を深め、両国の親善に奔走した。一方、日本人



日本人町跡に立つ建物内にある山田長政の像。冠をかぶった堂々たる姿で立っている。

義勇隊を率いてビルマ侵攻を撃退したばかりでなく、国内の反乱をも治めたので第24代国王ソントム王の深い信頼を得て、外国人としては初めての最高官位「オークヤ・セーナ・ピムック」(将軍)を受けている(1628年)。

5. ソントム王死去後、長政は王位



アユタヤへのアクセス

日本からタイ・バンコクまで飛行機で約6時間30分。アユタヤまでバンコクから鉄道またはバスで約1時間30分。

継承争い(5王家の興亡)の渦中に巻き込まれて苦悩した結果、次期国王プラサートン王は、長政の存在が王国の影響力大なるを恐れて、南方リゴール(六昆)に左遷後、1630年に毒殺させてしまう。更に1632年には日本人をアユタヤから追放し、残留者を焼討にしたので、居留区は完全に消失したのである。江戸幕府は鎖国の準備中で朱印船も中止していたので、どうすることもできなかったのは残念至極であったと思う。

電子メールによる会員への情報提供について

—メールアドレスの登録—

◇情報広報部◇

本会では、インターネットを利用し、電子メールにより緊急性の高い情報を、会員の皆様に送信提供しております。対象は当会の電子メールアドレス利用者全員と他プロバイダの電子メールアドレスをお持ちになっていて、本会にアドレスを登録している会員です。

他プロバイダの電子メールアドレスの登録につきましては、随時受け付けておりますので、是非ご登録いただきたくご案内いたします。

●電子メールアドレスの登録方法

電子メールで、ご氏名、登録メールアドレスを明記のうえ、下記宛お送りください。

・申込先メールアドレス：add@m.doui.jp